MINAMISANRIKU NOW 南三陸なう

きらめき人

「オレは孤立しねえ！」新しい町の住民との交流を積極的に！

勝倉（かつくら） 康（やすし）さん

大森海岸に近い少し高い場所に建っていた勝倉さんの自宅は、津波に襲われ半壊した。「リフォームすれば住み続けられるので、高台移転をしなくてすんだが、馴染みの住民が激減してしまい寂しくなった」と話す。昔から人との関わりが好きだったので、最近は東団地を訪れてはグラウンドゴルフやイベントに積極的に参加して楽しい毎日だとほほ笑む。

高校卒業後、仙台市内の経理専門学校に通い、民間の企業に就職し、事務や営業で各地を回った。町に戻ってからは、志津川御前下にあった「宮城県志津川合同庁舎」でボイラー技士として約30年勤務した。持ち前の明るさで、赴任してきた職員を誘って夜釣りを楽しんだことなどを懐かしそうに振り返る。

勤務の傍ら、野球審判員として少年野球や地域社会人野球の試合でグラウンドに立っていた。いずれ復興を遂げた志津川で野球の試合が行われたらまた審判してみたい！と表情は明るい。

「73歳だけど、若く見られるし、自分でもまだまだ健康で元気だと思っている。みんなバラバラになったけど、オレは孤立するつもりもないので、訪ねて行くのっしゃ。新しい町でも知り合い作るぞ」と最後まで笑顔が絶えない。

YASUSHI KATSUKURA

「地域貢献というと大げさだが、新しいまちづくりに協力したい気持ちは常にある。自分のできる範囲で役に立ちたい」と前向きな姿勢だ。

ひとめぐり

この土地の恵みが凝縮したマルシェを主催。

中（なか）島（じま） 綾（あや）子（こ）さん

6月9日（ロックの日）に開催される今年のひころマルシェでは、過去好評の「Hico Rock」ステージも、スペシャルバージョンとしてより楽しめる場を企画しているという。

AYAKO NAKAJIMA

春から夏へ季節が移ろう、彩り豊かな南三陸の里山で、この土地の恵みを生かしたマルシェが開催される。自然や健康に配慮した食べものや雑貨、子どもが体を使って自由に遊べる遊び場に、音楽、ワークショップなどピクニック気分で丸一日楽しめる「ひころマルシェ」。中島綾子さんは、2018年から実行委員長を務めている。

2014年3月に東京から移住してきた中島さん。都心からこの町に来た彼女が、この町の自然に魅了されるのに時間はかからなかった。そんな折、2016年初夏に開催された第2回「ひころマルシェ」に初めて参加した。「とにかく子どもの笑い声がたくさんあって、空気がゆっくり流れていてなんて心地よい空間なんだろう」とその場を振り返る。会場とその場にいる人でもたらされる「ピースフル」な空気に、回を重ねるごとに参加者も出店者も増え続けた。中島さんはその様子を「マルシェを中心に仲間が増えていく感じ」と表現する。そんな仲間とともに挑む8回目のマルシェは過去最多の55ブースが軒を連ねる予定。

「まちの人と外の人が、自然豊かな入谷で、モノや暮らしの知恵を楽しく交換し合う場となって、この土地をもっと好きになるきっかけになればうれしいです」と中島さんは意気込んでいる。

南三陸なう 検索 もっと詳しく知りたい人は、南三陸町公式ブログ 南三陸なうをご覧ください。